

## 下垂足

幽霊のように手が垂れさがるのを

「下垂手かみちりしゅ」カサという。幽霊に足はないが、足だって垂れさがる。「下垂足かすいそく」だ。どちらでも、神経麻痺まひによるが、ちょっとした油断で起きる。

78歳のSさん。認知症で通院中の患者さんだ。「なんか歩きかたがヘンだ」とおっしゃるが娘さんは鋭い。「この頃、つまずいて転んだりする。さては、どこかで頭を打って、頭の中に血腫でもできたのでは？」と心配する。

確かに、Sさんは、右足を足首で上に拳こぶしづけることができなくなっている。足を反そらさない。だから、足が垂れさがっているのを「見える」「下垂足」と呼ばれるものだ。

まだ、はっきりにしないが、右足の甲から脛すねの外側にかけてしびれるようだ。触った感覚も鈍おぼそうである。「腓骨神経麻痺ひこつじんけいまひ」が疑わしい。

もしも頭の病気によるものなら、足

全体に力が入らないはずだ。下垂足にはならない。しびれも足全体である。となれば、頭の検査をするまでもない。

腓骨神経は、腰から出る坐骨神経しつこくじんけいから分かれる。その後、膝の関節の裏から外側に出て、腓骨の近くを走る神経である。この膝下の骨と皮膚の間で神経が圧迫されると、簡単に神経麻痺が起きてしまう。記憶が曖昧なSさんからは、何をしていた麻痺が起きたのかを聞き出すことはできない。

関節リウマチや腫瘍が原因ということもありうる。だが、多くは長い時間を組んだままでいたり、硬い床の上で寝込んだりした時に麻痺が起きるといふ。また、草むしりなどで長くしゃがんだ姿勢を続けるのも良くないらしい。

となると、この腓骨神経麻痺は、他人ごとではなさそうだ。ワッシーにも、足を組む癖がある。テレビの前でうたた寝もする。なんだか、膝から下がしびれたよう目で覚めた。おっとっと。あわてて足を組みかえた。

(石黒修三いし黒しゆさぶいしへろくろにっく・脳神経

外科専門医…5/10北國新聞掲載)